

## 「高度医療・人材育成拠点」の整備に向けた検討状況について

健康福祉局医療機能強化推進課

### 1 要旨・目的

全国トップレベルの高度医療を提供する機能や、医療人材を育成・派遣する機能を持つ「高度医療・人材育成拠点」の整備に向けた検討を進めており、令和4年11月に策定した「高度医療・人材育成拠点基本構想」（以下「基本構想」という。）に基づき、新病院の具体的な医療機能や施設整備等に関する検討を進めるため、再編対象病院等と連携して開催した「高度医療・人材育成拠点基本計画策定会議」について報告する。

また、医療機関再編による影響が予想される地域の意見聴取のため開催した地域懇話会について、併せて報告する。

### 2 現状・背景

本県においては、医師や診療科の偏在、高度医療機器の分散、都市部における医療機能の重複などに課題がある。とりわけ、高度な医療資源が集中する広島都市圏において、医療資源を集約化することにより、県内全域を対象に高い水準の医療を提供するとともに、中山間地域の地域医療を維持する必要がある。

### 3 概要

#### (1) 対象者

県民、医療関係者等

#### (2) 実施内容

令和4年11月に新病院に必要な主な医療機能や広島都市圏の医療機関の再編等について、関係病院等で構成する広島都市圏病院長会議及び拠点ビジョン推進会議において、基本構想として合意が得られた。

この基本構想に基づき、新病院を一体となって構築する関係病院において、新病院に整備する医療機能や施設計画等に関する基本計画策定会議を開催するとともに、医療人材の確保や育成、中山間地域への医師の循環方策など重点分野については、大学病院等と連携した検討部会を個別に設置して検討を進めている。

また、県主催の最新医療に関する県民公開セミナーにおいて、基本構想に対して寄せられた県民からの質問に答えるとともに、医療機関再編による影響が予想される地域に対しては、住民や医療関係者、再編病院等で構成する地域懇話会を開催し、地域医療の在り方等に関する意見聴取を図っている。

ア 基本計画策定会議の議題及び主な意見等について（5月26日開催）

(ア) 基本計画の構成案（下線部：今回議論）

目次	内容
第1章	基本的な考え方 (基本理念・基本方針等)
第2章	<u>新病院の規模・医療機能</u> (病床数、診療科目等)
第3章	<u>施設整備方針</u> (医療機能等に基づく施設整備方針)
第4章	<u>部門別整備計画</u> (部門別整備方針、運営計画等)
第5章	<u>施設基本計画</u> (敷地内配置計画、階別構成等)
第6章	医療機器整備計画 (主要機器、整備方針等)
第7章	情報システム整備計画 (整備方針、システム導入範囲等)
第8章	地域医療体制確保計画 (医師循環に係る方針、仕組み等)
第9章	運営形態 (有識者会議の提言を踏まえた新病院の運営形態)
第10章	整備手法 (分離発注方式、ECI方式等)
第11章	事業計画 (収支計画、スケジュール等)

救急医療  
小児医療  
がん治療センター  
心臓血管（心臓病）センター  
脳卒中センター  
周産期医療  
消化器センター  
呼吸器センター  
腎臓病センター  
感染症医療  
災害医療 など

(イ) 会議構成員（団体）

J R 広島病院、中電病院、県立広島病院、広島県

(ウ) 第5回基本計画策定会議（5月26日開催）の議題及び主な意見について

区分	内容
主な議題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新病院の医療機能について</li> <li>○施設整備方針について</li> <li>○部門別整備計画について</li> <li>○施設基本計画について</li> </ul>
主な意見	
外来患者	○現行の3病院（県立広島病院、J R 広島病院、中電病院）における患者数の入院外来比率を基礎に想定しているが、 <u>地域完結型医療を目指す病院として、積極的な逆紹介に取り組む方向で検討を進めてはどうか。</u>
看護体制	○現在の急性期医療においては、入院患者5人に対して看護師を1人配置する5対1看護体制が理想であり、現実的となってきた。夜間の体制を含めて、診療報酬と人件費等についても試算しつつ整理を進めてはどうか。

個室率、 ゾーニング (階別配置)	<p>○病棟の個室化は、医療スタッフの動線や建設費の増加などのリスクがある一方、<u>患者のアメニティ向上や感染症患者への対応、医業外収益の確保などのメリットがあることから、個室率は最大限確保する方向で検討してはどうか。</u></p> <p>○新型コロナのような感染症対応の際には、個室が多い方が良い場合もあるが、全ての病棟について個室率を最大にする必要はないのではないかと。</p>
診療科構成	<p>○現行の3病院（県立広島病院、J R広島病院、中電病院）における診療科をベースに、消化器内科など一部の診療科については、専門性をより明確にするために分けてはどうか。</p>
重症系病床	<p>○重症系病床について、診療報酬に係る施設基準や看護単位等から、集中治療室や小児特定集中治療室などの病床内訳や必要な看護師数等を試算しているが、そのうち救命救急センターと集中治療部門への整備が想定される高度治療室（ハイケアユニット）については、役割分担など運用の整理が必要である。</p>

イ 各検討部会の議題及び主な意見等について（5月2日～5月10日開催）

区分	内容
主な議題	<p>○医療人材の確保策について</p> <p>○医療情報システム（DX）について</p>
主な意見	<p>○職員の多様な働き方を検討するに当たっては、新病院が掲げる断らない救急を実施するために必要となる体制を明らかにした上で、検討を進める必要がある。</p> <p>○単に院内保育所を整備するだけでなく、パートナーによるサポートなど<u>周辺環境についても考慮する必要がある。</u></p> <p>○広島駅前という立地条件から、病院内の施設については外部化を進めることが効率的である一方、初期臨床研修医などの若手医師は病院の外に出にくいことから、食堂やラウンジなどの施設については院内に整備した方が良いのではないかと。</p>
医療人材 確保	
医療情報 システム	
会議構成員	大学病院、医師会、行政等

※地域医療体制確保検討部会については、第4回基本計画策定会議（4月28日開催）以降の開催なし。

ウ 地域懇話会の議題及び主な意見等について（6月1日開催）

区分	内容	
主な議題	○医療機関再編による影響が予想される地域の医療体制について ○県立広島病院の土地活用方針について	
中 区 ・ 南 区 住 民	主な意見	
	基本 構 想	○改めてではあるが、新病院ができることにより、より良い環境ができることになるので、 <u>地元を含めて、中電病院が移転し新病院に集約することについては、賛成である。</u> ○繰り返しになるが、 <u>新病院の整備により、高度な医療が提供できるようになることや、これまで広島県にないこども病院のような機能ができることは良いことであり、期待している。</u>
	医療 機 能	○住民は県立病院の医師を信頼しており、跡地には民間ではなく、 <u>県立病院の一部の機能を分室のような形で残せないか。</u> ○せめて県として医療機能を残すという選択肢を示してほしい。安佐医師会病院のような形が残るのがベストではないか。
	跡地 活 用	○移転の賛否から跡地に何を残すかという次の段階に移ってきたと感じる。 ○医療機能以外にも土地の活用をどのようにするのかについて、皆の意見を聞いて受け止めてほしい。 ○アンケートを通じて南区の意見はしっかりと聞いてほしい一方で、アンケートだけをもって決めつけないでほしい。
中区・南区 医師会長	○若い医師が地域医療に従事するようしっかりとした仕組みを構築する必要がある。 ○基本構想は良いが、何らかの形で県病院の機能を残るようにしてほしい。	
県立広島病 院長、中電 病院長	○現在の場所で診療を継続しながら、県病院を建て替えることは難しい。 ○ <u>断らない救急の実現や働き方改革の影響等を考慮すると、患者により良い医療を提供するためには、医師をはじめとした医療関係者の数を増やし、マンパワーを集約することが必要である。</u> ○他県では隣接する2市で公立病院を1つに統合した事例があるが、地域住民には、医療体制の維持のために隣の市への病院移転を理解いただいたと聞いた。広島県でも将来の医療体制のために集約は必要である。	
有識者	○回復期が今後は重要となるため、跡地にそのような機能を残すこともよいのではないか。 ○複数病院の統合は簡単なことではなく、良いことと悪いことの両方がある。声を上げることができない人の声も丁寧に拾い、耳を傾ける必要がある。 ○現在の県病院の医療機能が完全になるのか、それとも100%残るのかという極端な議論ではなく、何割か残すという中間の選択肢があってもよいのではないか。	
会議構成員	地域住民代表（主に社会福祉協議会会長）、有識者、地区医師会、 県立広島病院、中電病院、広島市、広島県	

※会議構成員については、必要に応じて関係機関の参加を求める。

(3) スケジュール

令和5年9月を目途に新病院の基本計画をとりまとめる。

また、医療機関再編による影響が予想される地域の医療体制及び県立広島病院の土地活用方針についても、地域懇話会における意見を踏まえ、基本計画と合わせてとりまとめる。